

リレー連載生ヒストリー—温故知新

第16回 栗山正雄さん（62期）

私が執行部入りしたのは、2008年の白井会長体制発足時です。それまで活動していた同期の田島善光君から交替を頼まれ、未知の世界に踏み出しました。副幹事長でした。役員会に出て驚いたのは、思わしくない会の財務状況をどう改善すべきかの話ばかりだったこと。ところが新人ながら思うところをありったけ発言していたら、そこに注目されたのか幹事長就任を要請され、断り切れず、執行部入り僅か1年でしたが幹事長になったのです。

当時の幹事長には、会員管理を含む全ての業務が集中しそれだけでも多忙でしたが、加えて期待の財務改善に取り組みました。その内容も多岐長期にわたり、試行錯誤も続きましたが、会員数の拡大、会員と会の絆の増強が基本で、それを支える住所不明会員調査や若手期の発掘（79期、80期など）、そして同期の故真山隆夫編集長と取り組んだ会報「うえだ」の充実などでした。

これらの活動も充実した遣り甲斐のあるものでしたが、それ以上に印象的だったのが、アニメ映画「サマーウォーズ」の上映会です。これは白井会長も「一番印象に残った」と書かれています。この企画を提案し、準備し、集客を行ない、実行したのが私でした。当初上映会の実施を誰一人賛成いただけなかった幹部会メンバーの中で、先ずサポートしていただいたのが、白井会長でしたので、この上映会が在職時一番印象に残っていると書いていただき、最高に嬉しいですね。

映画「サマーウォーズ」の封切りは、私が幹事長に就任直後の2009年8月、新宿の上映館で鑑賞して、これは会の行事として絶対上映会をやるべきと直感しました。細田守監督のこの映画、作品として秀逸ばかりでなく、上田取分け上田高校野球部までが登場する話でしたから。又古色蒼然とみられがちな同窓会のイメージにもつながり、丁度悩んでいた若手の会員増施策としてもうってつけに思えました。

早速、幹部会に諮ったところ、賛成が一人もなかったばかりか、「同窓会でやるべき行事ではない」といった強烈な反対意見も出ました。がっかりして涙を飲んだのですが、2か月ほどして、同期の永井正夫君から、「配給元のワーナーブラザーズから安く貸し出してもらえる目途がついた」と突然電話をもらいました。永井君は映画製作の業界人で、先に上映会実施について相談していたのです。これは朗報と、再度幹部会に諮ることにし、会場としてキャンセルの難しい800名収容のつつ橋ホールを押さえ、不退転の決意で幹部会に臨みました。今度は先に述べたように白井会長に先ず支持していただき、漸く実施が決まりました。実は、資金面や集客策を中心にここからの苦労話や貴重な体験が沢山ありますが、

割愛させていただきます。

その他の活動でも、例の「はやぶさ」成功の功労者堀内康男さん（81期）など総会等の講演者依頼を巡るスリリングな裏話もありますが、別の機会といたしましょう。

幹事長を退任した2012年の総会では、元会計長の先輩Y氏から、「実に中興の祖でしたね」と慰労の言葉を頂き、見る方は見ていただいているものだと感謝の念で一杯だったのを良く覚えています。

苦労は承知で引き受けた幹事長でしたが、当初は想像もつかなかった遣り甲斐一杯の職務でした。近年幹事長選びは、断られてばかりで難航することが多いようですが、ただ幹事長になって威張ってみたいという方でなく、同窓会を愛し、奉仕の心を持って仲間のために尽くしたいという方が自ら手を挙げられることを期待しています。思いの他先輩幹事長らが手厚く支援していただけますし、必ずや遣り甲斐のある世界がそこに待っているはずですよ。

（添付は上映会当日、ご来場いただいた細田守監督直筆の色紙です）

